



(左) 11月29日 イオン株式会社様と地域貢献連携協定を締結させていただきました
(右) あらみや公園で咲くツバキ「野々市」

ごあいさつ

令和6年12月9日

12月に入り、本格的な冬を前にスタッドレスタイヤへの交換や雪吊り作業など、あちこちで冬支度の姿を見かけるようになりました。あらみや公園では、早咲きと言われるツバキ「野々市」が淡い朱鷺色（ときいろ）の花を咲かせていました。あられが打ちつける中、凜と咲くその姿に愛しさを感じるとともに、寒さを耐え抜く強さと覚悟も伝わってきます。

今冬は赤道付近の海水温が低い状態が続き、日本において大雪をもたらすラニーニャ現象が発生するとの予報が出ております。心配な状況ではありますが、冬に立ち向かう「野々市」のようにしっかりと除雪体制を整え、大雪の際には、市民生活への影響を最小限に抑えられるよう努めてまいります。

来年3月、東京都で国際ツバキ協会が主催する国際会議「2025年東京国際ツバキ大会」が開催されます。世界中の愛好家や研究者が日本を訪れ、研究発表などさまざまな関連イベントが予定されていますが、大会前に実施されるプレコンGRESツアーにおいて本市「愛と和 花のギャラリー ののいち椿館」と「椿山」が行程に選ばれました。令和2年3月に国際ツバキ協会から本州初となる国際優秀ツバキ園の認定をいただいた椿館と椿山を含めた野々市中央公園ですが、この度のツアーは外国人の皆さんにPRする絶好の機会となります。ツバキを市花木に定めて50年、ツバキと共に歩んできた野々市の魅力を発信し、訪れた皆さんに満足いただけるよう、しっかりとおもてなしをしたいと思います。

令和6年は私たち石川県民にとって忘れることができない一年となりました。元日の大地震と、復旧復興道半ばに発生した奥能登豪雨は、多くの尊い命と人々の生活を奪い、能登の風景を一変させました。先月26日にも能登地方で震度5弱の地震が発生するなど、度重なる余震や関連地震に、緊張がほぐれない一年でもありました。今もなお、多くの方が避難を余儀なくされ、不自由な生活のまま年末を迎えられている状況に心が痛みます。来年は復旧復興が進み、被災された皆さんが希望を持って生活を再建できる一年になることを心から願っています。